



平成24年 1月26日

## 「香川県の教員を対象とした調査結果の概要」について

質問紙調査により、(1) 今、学校現場で求められている教師の資質能力は何であるのか、それをどのように身につけているのか、(2) 教師は学校現場でどんな困難に直面しているのか、これらのことを明らかにした。

**調査実施者** 真鍋真由美(三豊市立河内小学校 教諭、現在 香川大学大学院在学中)  
河内小学校は 三豊市山本町河内714 電話0875-63-2019  
指導教員 加野 芳正(香川大学教育学部 教授 専門は教育社会学)

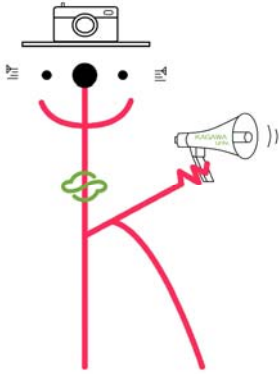
**調査の目的** (1) 今、現場で求められている教師の資質能力は何であるのか、それをどのように身につけているのか、  
(2) 教師は学校現場でどんな困難に直面しているのか、  
これらのことを明らかにすることによって、教員の資質能力の向上方策を探るとともに、修士論文としてまとめた(平成24年1月10日、修士論文を提出)。

**調査実施時期** 平成23年3月下旬～4月

**調査対象** 香川県の小学校、中学校に勤務する教員 1000名(『香川県教職員名簿』から層化抽出)  
有効回答数は490 (回収率49.0%)

**調査結果** とくに、(1) 教師のキャリア、(2) 教師の多忙化、(3) 保護者対応 を中心に調査結果の概要を整理すると以下の通りである。

1. 教師になろうとした理由の1位は、「教職は魅力的な職業だ」。「尊敬する教師に出会った」が続く
2. 教師としての力がつくのは、第1位「児童生徒との日常の交流」、第2位は「年配教師のアドバイス」  
今後10年に多くの年配教師が教壇を去り、若い教師への支援、指導が大きな課題
3. 「問題を抱える児童生徒との出会い」で教職観が変わり、学習の必要性を感じるようになる
4. 教員評価、および、その結果に基づく処遇への反映については意見が分かれる
5. 教員免許更新講習については、その必要性についての懐疑的な意見が多い
6. 多くの教師がやりがいを感じるのは、何といても「児童生徒の成長を実感するとき」
7. 今、教師に求められている資質能力の1位として「児童生徒に対する教育的愛情」が指摘された
8. 教師の多忙化(長時間勤務)が顕著。平日「学校にいる時間」は「12時間」が最多  
中間管理職は特に勤務が長時間、7割弱が「13時間以上」学校に。その分、睡眠時間にしわよせ
9. 教師が困難に感じていることに「保護者との人間関係」が多い
10. 教師をしていて「腹が立ったこと」で最も頻出した名詞形の単語は「保護者」。「理不尽」と同時に出現
11. 半面で、教師をしていて「うれしかったこと」(自由記述)にも「保護者」はしばしば登場



➤ 問い合わせ先

真鍋真由美 三豊市立河内小学校

TEL : 0875-63-2019 FAX : 0875-63-2151

または

加野芳正 香川大学教育学部 教授、専門は教育社会学

TEL : 087-832-1531

E-mail : [kanotti@ed.kagawa-u.ac.jp](mailto:kanotti@ed.kagawa-u.ac.jp)